



# お年寄りの

## 福祉サービスに思う

「人生僅か五十年」この言葉がまだ耳に残っています。それが今では「人生八十年」となり、やがて「人生九十年」にもなるのでしょうか。

総務庁のアンケート調査によると、老後の健康について「不安に思う」が五二％、独りぼっちで頼る人がいなくなるについて「不安に思う」が三二％となつています。また、元年度の六十五歳以上の独り暮らしの高齢者世帯は、全国で百六十万世帯にも達しているそうです。お年寄りも健康なうちはいいのですが、なんらかの介護が必要となつた時に家庭での介護を支える福祉サービスに「デイ・サービスセンター」があります。詳しく知りたいと思ひ、福祉事務所を訪ね所長の蛇川金義さんと高齢者福祉係長の長谷川文悦さんと伺いました。

### デイ・サービスセンターって

#### どんなところ

市では、在宅老人の福祉サービスのの一つとして、平成三年十

二月水交苑に「のぎく」と四年八月総合福祉センターに「かつら」のデイ・サービスセンターを開設しています。利用できるのは、六十五歳以上の人で、独り暮らしの人、寝たきりや体が弱いなどのため日常生活を営むのに支障のある人です。現在の利用者は、のぎくとかつらを合わせて百二十人になっています。いずれの施設も、入浴と昼食などのサービスを含めた利用料は一日五百円です。センターは月曜日から金曜日まで利用できますが、それぞれ一日十五人が限度ですから、一人週一回の利用となつているそうです。

センターでは、普通のバスのほか、車いすや寝たまま乗せられるリフトバスで利用者を無料送迎しています。センターに到着するとまず健康チェック、そして生活指導、日常動作訓練、昼食、入浴などとなっています。浴室は広々としていて、寝たまま入浴できる特殊浴槽が完備されています。特殊浴槽を使つての入浴の場合、入浴者一人に職員が三人がかりで行っているそ

うです。センターの利用には利用登録が必要ですから、福祉事務所高齢者福祉係（内線406）へ申し込んでくださいとのことでした。

高齢者が増加してきていることに伴い、在宅介護を必要とする人も増加することが予想されますから、今後ますますセンターの役割は大きくなってきます。市では、五年度にもう一カ所デイ・サービスセンターを開設する準備を進めているそうです。

### 望まれる

#### ボランティア活動

センターの運営は市社会福祉協議会に委託していますが、職員の配置など、国の基準が低いため人手不足が実情です。そのため、いろいろなボランティア団体の人たちが、入浴や食事などの手伝いを積極的にしてくださつてくれるそうです。

これからは、お年寄りの増加により、行政の在宅福祉サービスだけでは対応しきれなくなつてくると思います。ボランティア

ア団体、更には地域内で助け合うボランティア活動が必要になつてくるのではないのでしょうか。

### 高齢社会を迎え

#### 増える在宅介護

テレビや新聞などで「高齢化社会」「高齢社会」という言葉をよく耳にします。国際的には、全体の人口に占める六十五歳以上の高齢者の比率が七％を超えると高齢化社会、一四％を超えると高齢社会、二〇％を超えると超高齢社会と定義されているようです。統計によると、国全体では高齢者の人口比率が現在一二・五％で、今後も人口の高齢化は急速に進み、平成三十二

年ごろには四人に一人が六十五歳以上という超高齢社会になると予想されています。

大館市は国全体よりも高齢化が進んでいます。昭和五十七年には高齢者の人口比率が一〇・五％と高齢化社会になつていて、その後も高齢者の人口比率は年々上昇し、平成四年四月には一六・七％と高齢社会に突入しています。当然、なんらかの介護を必要とするケースも多くなつてきます。老人ホームや病院などの施設での介護を受けられる人は限られると思います。家庭で介護するということは決して人ごとではないのです。在宅での福祉サービスの重要性を痛感しました。

### 広報市民リポーター

## 佐々木紀子 (本郷上)



左が佐々木リポーター

◇広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載しています。